



つむぐ

浜松市教育研究会
研修主任研究部
研修だより No. 1
令和6年 6月 7日

今年度も「主体的・対話的で深い『教師の学び』を目指す校内研修の創造」というテーマのもと、研修がスタートしました。教師一人一人がそれぞれの課題をとらえ、何をどのように実践していくのかという学びを進めるため、校内研修の果たす役割はとても大きく、各校の実態に応じて様々なアプローチが考えられます。それらを本研究部で共有し、各校に持ち帰って改善を繰り返しながら実践していくことで、研修主任としての力量を伸ばし、視野を広げ、各校で力を発揮することにつながると考えています。

教師自身が「主体的・対話的で深い学び」を体感することによって、子供に身に付けさせたい学びへの理解がより一層深まります。本研究部一丸となって、今年度の実践を進めていきたいと思えます。

第1回研修主任研修会

5月29日（水）に本年度1回目の研修主任研修会を開催しました。今回はサーラ音楽ホールにて、集合型の研修を行いました。

顧問校長である御手洗実先生（南部中学校）から「研修主任のためのアイデア箱」と題して、よい校内研修やよい授業の条件、研修活性化の手立て等について、事前に行った研修主任研究部アンケートの回答を示しながら、御手洗先生のご経験を交え、お話していただきました。



最初に、研修主任歴が1～3年以内の先生が約7割を超え、実際に研修主任を担うにあたり、悩みや不安を感じていることについて紹介がありました。そこで最初に話してくださったのは、「研修主任も困ったら『助けて』と叫ぼう！」ということでした。悩みや不安を感じているのは誠実さの証であり、誠実に仕事を進めていくには、お互いに助け合うことができる環境が大切であるということでした。

次に、校内研修の全体像について、パズルのイメージをもつとよいと話されました。研修内容には、ICT、学級づくり、発達支援、生徒理解、熱中症対応や食物アレルギーと、多種多様で、これらを学校の実態に合わせてパズルのように組み立てていくこと、またその運営は授業と同じように、単元計画や一時間の授業づくりだと考えて進めてみてはどうかと話されました。授業の単元計画＝校内研修の年間計画、1回の授業＝1回の研修と考え、「つけたい力を明確にすること」や「個に応じた研修」が求められる点では、まさに授業と同じなのだという認識を持つことが大切だと分かりました。

そして、職員全員が同じ方向に向かって研修を進めるために①「究極の一時間」をつくる、②空気をつくる、③モデルを示すという3つの手法を紹介していただきました。①については、「先生方は、一年間でどれだけの授業を行っていますか？」と問われ、ハッとさ

せられました。自分にとって No.1 の授業を常に更新し続けることが教師として必要なプライドであり、「未見の授業」を求め続ける姿勢が大切だと知りました。生徒がよく考え、どの生徒にも学びがある授業が求められるように、校内研修も自校の実態に合わせてみんなが同じ方向を向いて研修する必要があることを実感しました。②では、お互いに授業の話聞き合う「共感」が「共鳴」へとつながり、さらには「共創」へとレベルアップできるよう、掲示物や職員室での会話など、様々な場面で仕込むことが大切だということでした。③では、対話の際の机の向きや書く活動の導入など、アウトプットの方法を全授業でそろえる重要性をお話してくださいました。御手洗先生の過去の実践を交えたお話は大変興味深かったです。

さらに、先生方の時間の確保や仕事量の多さに対する不安解消のため、「本質」に向かい「問い直す」ことの大切さについてお話してくださいました。本質に向かうには、常に学習指導要領にかえること、子供たちに本当の力が身についているかを問い直すことで、先生方が意識して取り組み、子供に力をつけさせることができるということでした。

最後に、「よい研修とは子供（教師）の心に灯をともしること」という言葉で講話は締めくくられ、私たちが目指すよい授業のイメージ、よりよい授業実践を促す校内研修のイメージをつかみ、研修主任が校内研修で示す具体的な方向性を改めて確認できました。御手洗先生は、具体的な道筋を示してくださるとともに、先生としての「想い」がひしひしと伝わり、多くの先生方が「こんなことをやってみよう」「こんなこともやってみよう」とたくさんのヒントを見つけられたと思います。まさに、先生方の心に灯がともった瞬間でした。

悩みは様々③ 時間 仕事量

- 「本質」に向かう
- 普段を「問い直す」
視点・気づきを与える



その後、小学校の先生方、中学校の先生方で分かれ、研修主任経験1年目、2～3年目、4年目以上のベテランの先生で構成されたグループで、各校の校内研修について情報交換を行いました。自校の研修構想や研修計画についての資料を持ち寄り、お互いの校内研修での実践や運営、実際に抱えている課題や自身の悩みや不安について話し合いが行われました。どのグループも終了時間ぎりぎりまで活発な意見交換が行われ、会場は大いに盛り上がりました。校内で研修を進めていく上での悩みや疑問、夏季研

修の内容や進め方など、他の学校での取組が大きなヒントになった方も多かったのではないかと思います。もっと他の学校の実践について知りたい、自分の不安や悩みを聞いて欲しい、そんな雰囲気伝わってくるようでした。改めて、他校との情報交換がお互いの校内研修を進めるにあたって効果が高いこと、校内の先生方はもちろん、校外の先生方とも対話を通して得られるアイデアがとても重要であることを実感しました。

今年度も研修会を通して、研修主任同士で情報交換の場を設け、自校の研修に役立つ時間を提供できればと考えております。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

(文責 中郡中 飯田 宣子)